



[概要版レポート]

# 第5回 スタジアムパーク構想未来会議

---

2023年9月16日(土)15:00～16:00

# 第5回 スタジアムパーク構想未来会議

## 概要

日時: 2023年9月16日(土) 15:00~16:00

場所: ユアテックスタジアム仙台3階 VIPルーム

## 参加者

氏名	所属および役職等
小田 隆史 (座長)	東京大学大学院 総合文化研究科 准教授
遠藤 雅夫 (副座長)	ベガルタ仙台・市民後援会 事務局次長
三船 博庸 欠席	ベガルタ仙台・市民後援会 事務局長
植竹 清美	ベガルタ仙台ボランティアクラブ 代表
天野 和彦	東北学院大学 教養学部 地域構想学科 准教授
田中 秀夫	せんだい泉エフエム放送株式会社 取締役 事業部長
遠藤 宏美 欠席	株式会社ジェイコム埼玉・東日本 仙台局 地域プロデューサー /一般社団法人 泉青年会議所 地域連携強化委員会 運営幹事
畑 義信 欠席	7DAYS, Peace. (七北田公園活性化協議会) 副代表/仙台IZUMIフードリンククラブ 相談役 /株式会社カルティベイトダイニング 代表取締役
赤坂 由人 ☆	株式会社ライズ・コンサルティング・グループ パートナー

☆はオンライン参加 ※敬称略

オブザーバー：仙台市

## アジェンダ

---

### ① 仙台市からの回答について

2022年12月26日(月) 提出に提出した「スタジアムパーク構想に関する検討 途中経過のご報告」(非公開) が対象  
回答を受け明らかになったこと

### ② 今後の会議、検討の方向性について

スタジアムパーク構想未来会議で進めてきた検討の方向性 → 軌道修正が必要  
本来あるべき検討の流れから、今後クラブが進める検討の方向性について説明

# 仙台市からの回答について

## 事務局からの説明

仙台市に提出した「スタジアムパーク構想に関する検討 途中経過のご報告」について、内容と経緯の振り返り

第1回・第2回会議では主にスタジアム本体のハード面に焦点を当て、細部の検討・アイデア出しを実施。

### 【理由】

ユアスタの長寿命化に向けた改修が既にスタジアム所有者である仙台市で予定されており、一般的な検討手順とは異なるが、スタジアムの改修に係る部分については先に仙台市へ情報提供が必要だと判断したため。

### 本来の検討手順(例)

- 1 整備のビジョン
  - 2 整備方針 (コンセプト)
  - 3 施設整備計画 ← ☆ここから議論をスタート(第1回・第2回)
  - 4 整備手法
  - 5 管理運営手法
  - 6 事業スケジュール
- 「スタジアムパーク構想に関する検討 途中経過のご報告」  
2022年12月26日 仙台市へ提出
- 内容: スタジアム本体のハード面に係るアイデア・改修案

# 仙台市からの回答について

## 仙台市公園管理課からの回答(一部抜粋)

### 要望項目

### 回答

#### 照明

##### 10. 水銀灯からLED照明へ変更する

- その際に、イベント時も使用可能なムービングライト等を設置する。
- LEDビジョンと連動し一括管理できるような設計にし、演出効果を高める
- ※照明管理の運用まで考えた上で実装が必要



令和5年度中に既存のナイター照明を演出効果のあるLED照明にする。

#### 映像装置-リボンビジョン

##### 14. 照明と連動し一括管理できるシステムの導入(光の演出)

#### コンコース

##### 20. 床面の補強、滑り止めのための材質変更

- 観客の安全性確保と、搬出入の円滑化



大規模改修工事において、一部床面の舗装改修を実施する予定。

# 仙台市からの回答を受けて

明らかになったことは大きく分けて2つ

---

① 自治体の予算でできること

② スタジアムパーク構想未来会議で進めてきた検討の方向性 ➡ 軌道修正が必要

# 自治体の予算でできること

## 仙台市が予定しているユアスタの長寿命化に向けた改修

もとより、老朽化した施設の入替えや修繕がメイン

➡ アセットマネジメントの観点から「**仙台市公共施設総合マネジメントプラン**」に基づく改修を予定



仙台市公式ホームページ「公共施設マネジメントの推進」

<https://www.city.sendai.jp/zaise-kokyo/shise/zaise/zaimu/zaise/management/index.html> 2023/9/15 アクセス

➡ 上記以外のスタジアムのハード面の改修アイデアを、市民およびベガルタ仙台からの要望という形で仙台市へ提出するという、**アプローチ自体を見直す必要がある**と判断。

# 今後の会議、検討の方向性について

## 枠組みの整理と検討に立ち戻る

集めたアイデアを「誰が」「いつまでに」「どのように」実現していくか、フィージビリティ調査も含めた検討を進める

本来はミッション、ビジョンに基づき、具体的な戦略や施策を検討していく必要がある。  
また、スタジアム事業をクラブとしてどのように位置づけるかも重要。



いきなり大きな絵を描くのではなく、

**ベガルタ仙台の現状、外部環境を踏まえ、身の丈に合ったプランの実現を目指し検討を進める。**



# 今後の会議、検討の方向性について

## 検討にあたり事前に整理しておくべき論点

- **公園の管理運営は、黒字化の難しさ、事業領域の違いからチームのみで行うにはハードルが高い。**  
全国の野球やサッカーの事例を見ても、チームはスタジアム運営に注力し、公園全体までは手が行き届いていないケースが多い。
- **サッカーの場合、スタジアム収支の黒字化もハードルが高い**  
アリーナと違い多目的の活用を考えたとき、ピッチ上の天然芝の活用がネックとなり、稼働率を上げることが難しい。
- **新たな事業者の参画により、集客・収益力の高い独立採算事業などを見込める。**  
スポーツチーム単体ではカバーしきれないノウハウやリソースを持った企業と組むことで、検討の幅が大きく広がる。



上記を踏まえ、

**ベガルタ仙台の経営規模・外部環境を精査し、ロードマップを描きながら最適解を見つけていく**

## 委員からの意見・感想 ①

黒文字：委員からの意見・感想

青文字：事務局からの回答・コメント

そもそもスタジアムパーク構想の検討が始まった時を振り返ると、新型コロナウイルス感染症などの影響もあり、ベガルタ仙台がサッカーだけでは立ち行かなくなるのではないかと、そのためにノンフットボールビジネスの部分を増やすべき、という話がきっかけだったように思う。事務局からの説明を受け、一から出直しのようなイメージを受けてしまったが、その部分について説明をいただきたい。

経営検討委員会(2020年7月～)でスタジアムパーク構想(当時はスタジアムのボールパーク化と表現)が登場したのは、収益基盤の強化・多様化を目的としたものが発端。会議と並行して事例収集、スキームや資金調達の検討も進めてきたが、同時並行でできていたかということ、社内の体制やリソースの問題もあり全力を注ぐことができていなかったのが正直なところ。そのため、会議の内容としてどういった切り口でアイデアを出してほしいのか、集めたアイデアをどう構想に活かしていくのか等、出口が曖昧なまま進めてしまっていた部分があった。今まで頂いた意見・アイデアは当然データとして事務局(クラブ)で保管しているため、仕切り直しではなく今一度枠組みを整理した上で、構想をより具体化していくという意味で捉えていただければ。

仙台市が予定している改修計画に対し、何か提言していくのはどうか。

ご説明した通り、そもそも仙台市が予定している改修はスタジアムの長寿命化に向けた改修であり、付加価値を生み出すようなスタジアムパーク構想の改修とは切り分けて考える必要がある。我々の要望を聞いて自治体で予算をつけてくださいというアプローチではなく、スキームや資金調達も含め一緒に検討していくスタンスで考えている。

## 委員からの意見・感想 ②

黒文字：委員からの意見・感想

青文字：事務局からの回答・コメント

スタジアムパーク構想未来会議の会議名に「スタジアム」というワードが入っているからか、トイレや手すり、照明の話など、どうしてもスタジアム内部のハードに係る部分についての話をよく聞かれる。特設サイトでもレポートが掲載されているが、具体的にどのような議論、検討がされているのか外からはわからない部分もあるため、可能な範囲で今後も共有して欲しい。

検討状況や内容については、今後も公開可能な範囲で随時情報を公開していく予定。

本会議自体が、実現不可能なことでもアイデアを広げていこうということだったので、どこかで発想の転換は必要と思っていた。最終的な方向性の意思決定自体はベガルタ仙台にあるため、それをどう進めていくべきか方法論も含めてクラブが示しておかなければ、どういったアイデアを出せばいいかわからない。一つの方法に捉われず、事業の対象、種類選別を考えながら進めて欲しい。

クラブとして中長期のロードマップをしっかりと策定した上で、単発で終わるような構想にならないよう、随時情報を共有しながら進めていく。

ワイガヤ含め、夢のあるお話をさせていただいたなという印象。この会議で出た意見も大切にしつつ、実現できそうなものはどんどん取り入れて欲しいと思う。

会議で出たアイデアや意見は事務局(クラブ)として保管している。これを会議と共に終わらせてしまうことなく、枠組みや体制が整ったときに活かしていく予定。現状でも自治体や泉中央地区で活動する方々と接する機会やアイデアを伝える機会は多くあるため、今後もそういった機会を活かし、伝えていく。

## 委員からの意見・感想 ③

黒文字：委員からの意見・感想

青文字：事務局からの回答・コメント

感想と要望。この会議が始まった当初から、「スタジアムを中心とした賑わい創出」、「クラブの収益の多角化」この二つが軸になっていたと思う。クラブがこのまちに存在していくにあたり、これはとても大事な軸になる。事務局からの説明を聞いた限り、それがなくなる訳ではないと理解したので安心した。今まで出た意見はスタジアムパーク構想未来会議で出た意見ということで括らず、少し抽象化した状態で、例えば経営の多角化のために何をしたらいいのか、ダイバーシティインクルージョンの観点で様々な人を巻き込んでいくにはどうしたらいいのか等、今後検討していく上での視点として持っておいてほしいと思った。

また、身の丈に合った最適解を見つけるという話もあったが、まちのサッカークラブとしてはぜひ大きなビジョンも描いてほしい。現実的な夢はつまらないし、風呂敷を広げるのもクラブの役割だと思う。進行は手堅くてもいいが、掲げる夢は大きくてもいいと思うので、そこは今後クラブの検討に期待したいと思う。

クラブの存在意義として夢は常に持ち続ける。来年は30周年ということもあり、今後もクラブにかかわるすべての方々と一緒に夢を実現するため、軸となる部分がぶれないよう注意しながら進めていく。